真珠新聞
発行所：伊勢新聞社
〒514-0831　津市本町３４番６号
☎059-224-0003 FAX059-226-3554
www.isenp.co.jp
©伊勢新聞社 2019

真珠業界発展へ活動報告

第２回真珠産業連携強化協議会

東京駅近くのフクラシア東京ステーション（東京都千代田区大手町２丁目）６階で３月11日、平成30年度２回目の真珠産業連携強化協議会（渡部終五座長＝北里大海洋生命科学部特任教授）が開かれた。同協議会は、真珠振興法の制定を受け、水産庁の「真珠養殖業等連携強化・成長展開事業」にて設立され、同29年度から活動している。

この事業は、真珠養殖業などを「成長産業」として展開するため、真珠産業各層（養殖・流通・行政・研究機関）の連携強化を図り、協議会や部会を開催し、行動計画策定を通じて真珠振興を図ることが目的。外部有識者や事業者（流通業者、養殖業者）がメンバーで、水産庁、経済産業省、愛媛県、長崎県、三重県、神戸市、宇和島市など地方行政がオブザーバーとして入るなど「オールジャパン」体制の日本真珠産業戦略会議に相応しい陣容となっている。

会議では、同30年度の各部会活動について、生産開発部会部会長の渡部氏（座長）から、昨年９月26日―11月９日に実施した「種苗・母貝調達状況に関する調査」の結果について報告があり、三重・愛媛・長崎（壱岐・対馬を含む）・熊本・大分・佐賀各県の取り組みや課題が紹介された。渡部氏は調査結果を受け、同31年度事業では大学・県水産試験場と連携して海洋環境に合った母貝の生物学的特性を遺伝学的情報から明らかにする取り組みに着手し、ジャパンブランド確立のための母貝生産条件の解明を目指すとしたほか、昨年11月30日―12月１日に開催した「真珠研究シンポジウム２０１８」についても報告した。全真連からは、九鬼湾にて実施中の天然採苗試験について育成調査、生息状況調査の結果など事業の状況報告もあった。

平成30年度第回真珠産業連携強化協議会（３月11日）

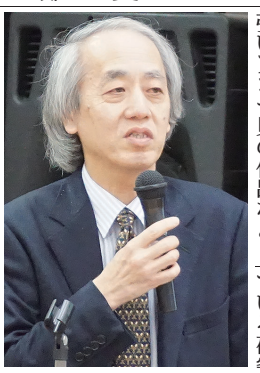
■ 真珠産業連携強化協議会委員名簿 ■　（敬称略）

		所属	役職	
外部有識者委員	渡部終五	北里大学海洋生命科学部	特任教授	座長
	川村雄介	株式会社大和総研	副理事長	副座長
	八木信行	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	
	山下裕子	一橋大学大学院経営管理研究科	教授	
	嶋野智紀	株式会社小学館　女性メディア局	ﾁｰﾌﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ	
事業者委員	大月京一	一般社団法人日本真珠振興会	会長	
	金子康男	一般社団法人日本真珠振興会	理事	
	須藤雄二	一般社団法人日本真珠振興会	参与	
	平井善正	全国真珠養殖漁業協同組合連合会	顧問	
	藤田哲也	全国真珠養殖漁業協同組合連合会	代表理事会長	
	植村作治郎	愛媛県漁業協同組合連合会	参与	
	清水勝央	日本真珠輸出組合	理事長	
	覚田譲治	日本真珠輸出組合	副理事長	
オブザーバー	保科正樹	水産庁　増殖推進部	部長	
	栗田豊滋	経済産業省　製造産業局生活製品課	企画官	
	古屋万恵	山梨県　産業労働部地域産業振興課	課長	
	荒島幸一	三重県　農林水産部水産資源・経営課	課長	
	澤田宣雄	滋賀県　農政水産部	技監	
	渕上茂也	兵庫県　産業労働部産業振興局工業振興課	課長	
	前原　務	愛媛県　農林水産部水産課	課長	
	岩崎健吾	高知県　水産振興部漁業振興課	課長	
	川原逸朗	佐賀県　農林水産部水産課	課長	
	中村勝行	長崎県　水産部漁業振興課	課長	
	山田雅章	熊本県　農林水産部水産局水産振興課	課長	
	景平真明	大分県　農林水産部水産振興課	課長	
	折田和三	鹿児島県　商工労働水産部水産振興課	課長	
	河端陽子	神戸市　経済観光局ファッション産業課	課長	
	四宮陽一	宇和島市　産業経済部水産課	課長	
	堀井豊充	国立研究開発法人水産研究・教育機構　研究推進部	部長	

真珠養殖の現状と展望

みえ水産フォーラムで議論

三重県真珠養殖連絡協議会（山際定会長）、三重地域産学官連携水産研究連絡会議（三重大大学院生物資源学研究科、国立研究開発法人水産研究・教育機構・増養殖研究所、三重県）は３月７日、「第９回みえ水産フォーラム」を志摩市商工会館（三重県志摩市阿児町）で開いた。三重県は、英虞湾海域を中心にアコヤ貝を用いた真珠養殖が盛んだが、販売価格が景気に大きく左右されることや赤変病、有害赤潮の影響などにより安定的な経営維持が難しく、経営体数が減少し、真珠養殖生産量・生産額は大きく減少している。同フォーラムは、高品質な真珠の生産技術開発、赤変病に強いアコヤ貝の作出など、各研究機関で真珠養殖の経営安定化に向けて進められている研究事例や取組などを共有し、真珠養殖業の現状と今後の展望について議論する目的で開かれた。前号に引き続き、フォーラムでの講演要旨を掲載する。


閉会挨拶する三重大学の吉岡基教授＝三重県志摩市で

講演要旨「アコヤ貝真珠の成長と品質を左右する要因について」

三重大学・古丸明教授

発表する古丸氏＝三重県志摩市で

古丸氏は、近隣の研究機関や企業との共同研究の一部を発表。母貝・ピース貝の育種に関する研究では、真珠の品質は、巻き、光沢、干渉色の色、色素による色、大きさ、キズの有無で決まるが、母貝に求められるのは高生残率、厚い真珠の巻きで、ピース貝に求められるのは真珠の美しい色と光沢であるとした。母貝の系統による相違について、研究目的として、性による違い▽貝殻の成長との関係▽ポリドラ寄生はどのような影響を与えるか▽時期による相違・水温との関係―を挙げ、研究結果として、①母貝の系統によって巻きは異なる②母貝の系統によって一層の厚さも異なる（干渉色の相違）し、ピース貝の系統でも真珠層の厚さが異なる③水温と真珠の巻きは相関がある（夏厚く、冬薄い）。④一層の厚さは水温によって異なる。冬に一層の厚さが変化する↓品質（光沢と関係）⑤光沢と表層の結晶層の厚さと薄くなることと関係がある⑥不均一な層は品質を落とす可能性あり⑦ポリドラ寄生は巻き、一層の厚さを薄くする。↓品質の低下（巻き＋干渉色）―とした上で、涼しい夏での実験結果であることに注意が必要とした。

また、垂下養殖では餌の量によって貝の成長が決まるため、餌の量に見合った貝の養殖を行うことが肝要であるとした。２０１８年夏は猛暑となり水温もかなり上がって貝の大量斃死が懸念されたが、英虞湾内で飼育していた挿核貝は生残率が想定よりも高かったのは、漁場や感染症の有無にもよるが、夏の水温が高くても好適な餌の量が十分であれば貝は簡単には死に至らないためだとした。持続的な効率的養殖の実現には、真珠の品質、生産効率、付加価値を高める技術開発をはじめ、環境に友好的な養殖実現、適正な養殖量把握、漁場の有効活用、湾内の浅場の環境再生、適切な量の栄養塩維持のための施策、後継者対策など、流通体系のあり方も含め、課題は山積しているとした。

販売・マーケティング部会副部会長の山下裕子氏（一橋大大学院経営管理研究科教授）からは、２月８日に日本真珠振興会が制定した「真珠指針」について報告があった。これは日本が世界に先駆けて養殖技術を確立した真珠について、真珠に関わる全ての人々が真珠の定義に関する情報についての共通認識を持ち、真珠の宝石的価値や宝飾文化の持続性を確保するために必要な行動規範を定めたもの。同氏からは、品質規格ワーキンググループの設置と今年度実績、次年度課題についても報告があった。

田坂行男氏（日本真珠振興会専務理事）からは、次世代中核的人材育成事業について、同30年度に助成を受けた７団体の活動報告があった。三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング主任研究員の妹尾康志氏からは、現行行動計画の評価と改訂について、進捗チェックシートなどの資料に基づいて説明があり、行動計画付属資料にかかる改訂案が承認された。

同31年度事業については、中井忍氏（水産庁栽培養殖課課長補佐）から「日本真珠国際競争力強化推進事業」についての説明があり、同30年度の議論に基づき、真珠の日本ブランド構築のため品質基準の策定・普及に必要な調査・分析など（品質基準の事例収集、品質検査・管理システムの設計、漁場別の生産情報・品質特性の調査分析）について支援する旨と、連携強化推進事業、次世代中核的人材支援事業の継続に加え、「日本ブランド構築重点課題支援事業」により真珠産業の国際競争力強化のため行動計画の重点項目に関する取り組みを支援する旨の報告があった。

会長　大月　京一
副会長　中西　伸一
副会長　藤田　哲也
一般社団法人　日本真珠振興会
東京都中央区京橋三―六―一五　真珠会館四階
電話（〇三）―三五六一―四三五五

株式会社　真珠総合研究所
所長　武内　恭一
社長　沢井　寿哉
東京都台東区台東４―14―８
シモジン・パークビルアネックス４階
電話（０３）３８３６―０３５２

会長　藤田　哲也
副会長　森下　文内
全国真珠養殖漁業協同組合連合会
伊勢市岩渕一―三―一九
電話（〇五九六）二八―四一四七

pepca
理事長　奥田　一弥
副理事長　小山　藤太
副理事長　西岡　隆弥
副理事長　森田　雅人
日本真珠輸出加工協同組合
〒104-0031　東京都中央区京橋三―六―一五（真珠会館）
電話（〇三）三五六二―五〇一一（代）
FAX（〇三）三五六二―五〇一二
http://www.japan-pearl.jp

理事長　清水　勝央
副理事長　金子　康男
副理事長　覚田　譲治
日本真珠輸出組合
神戸市中央区東町一二三（日本真珠会館）
電話（〇七八）三三二―四〇三一
FAX（〇七八）三三二―四三四五
http://www.japan-pearl.com

理事長　濱口　大
副理事長　西岡　隆弥
副理事長　浦口　寿人
日本真珠仲買協同組合
真陽入札会　伊勢市岩渕一―三―一九
電話（〇五九六）二八―二五七七（代）

理事長　小山　藤太
副理事長　金子　基樹
副理事長　山本　守宏
東京真珠加工卸協同組合
〒104-0031　東京都中央区京橋三―六―一五（真珠会館）
電話（〇三）三五六二―五〇一三（代）

真珠核製造・販売
堤製核有限会社
取締役　堤　真一
大阪府松原市若松1-5-15
電話(072)331-0832(代)　FAX(072)331-0854